

令和4年度 第1回苫小牧市文化財保護審議会 会議概要

日 時：令和4年7月1日（金）14：00～15：00

会 場：苫小牧市役所第2庁舎 2階北会議室

○出席委員 簗島会長、木村副会長、明村委員、佐藤委員、角田委員、中村委員
林崎委員

7名出席 （欠席3名：大西委員、木村(由)委員、中村(努)委員）

○教育委員会（事務局） 教 育 部 山口部長、斎藤次長
生涯学習課 河本課長、斉藤課長補佐、佐々木主査
野水主査
美術博物館 藤原館長、岩波学芸員、岡本学芸員

1 開 会

2 委嘱状交付

3 教育部長挨拶 （山口部長）

4 議 事

（1）副会長の選出について

◆前任者辞任に伴い、事務局(案)として木村(義)委員を推薦、全会一致で承認。 木村新副会長挨拶

（2）令和4年度文化財保護事業について

◆市所有の静川遺跡ほか、指定文化財の草刈や修繕などの適切管理や静川遺跡、北黄金貝塚公園を対象とした文化財発見ツアーの開催など実施事業について事務局より説明。

（3）苫小牧市の文化財について

◆市所有の各種文化財の指定件数、歴史等について事務局より説明。

（4）新規指定の文化財について

（ア）これまでの経過について

◆事務局としてタプコブ遺跡から出土の「クマ意匠」付浅鉢形土器と「鉄製品」2点を新たな市指定文化財候補に選定し、本審議会への諮問を定例教育委員会に提議し、本審議会への諮問の承認を得たこと、苫小牧市教育委員会より、「苫小牧市指定有形文化財の指定について（諮問書）」を受理したこと。について事務局より説明。

（イ）苫小牧市指定文化財指定基準の作成について

◆今後の文化財指定に向け、年度内を目途に本市の実情に即した指定基準（案）を作成していく考えであることを事務局より説明。

（ウ）新規指定候補物件選出にあたって

◆タプコブ遺跡から出土した2点を新たな市指定文化財候補に選出した根拠等について事務局より説明。

(エ) 新規指定候補物件について

- ◆候補物件の「クマ意匠」付浅鉢形土器と「鉄製品」の2点について時代背景やそれぞれの特徴並びに、歴史的・学術的重要度について事務局より説明。

(オ) 今後のスケジュール（予定）について

- ◆答申に向けた、今後の本審議会の業務スケジュール等について、事務局より説明。

○各議事ごとの質疑応答

《令和4年度文化財保護事業について》

【質疑なし】

《苫小牧市の文化財について》

【質疑なし】

《新規指定の文化財について》

(ア) これまでの経過について

委員：この遺物が出土したのは何年（いつ頃）なのか。

事務局：1983年（昭和58年）の発掘調査にて出土したものである。

会長：以前から、学会などでは「価値の高いもの」として評価されてるものである。

委員：「クマ意匠」付浅鉢形土器とのことだが、他にも出土しているのか。

事務局：函館など道南地方で出土されている。

会長：時期が近いものでは伊達市で土器ではないが、スプーンのようなものが発掘されている。

(イ) 苫小牧市指定文化財指定基準の作成について

【質疑なし】

(ウ) 新規指定候補物件選出にあたって

【質疑なし】

(エ) 新規指定候補物件について

委員：鉄製品の拡大写真に写っている角のでっぱりは何を意味しているのか。

事務局：鉄の斧をおそらく短冊状に切ったもので、その形で九州北部から日本海ルートで苫小牧方面に入ってきたと考えられている。何故、この形に切ったのかは類例が少なく、この形を選択した意味については、今後の研究課題と考えられている。

委員：私が聞いたのは、上に載っている四角い物が何を意味しているものなのか分かれば教えてほしい。とのことである。

- 会 長：砥石と鉄製品ということではないのか。
- 事 務 局：ないと思います。下においてある石は台石として置かれており、その上に鉄製品を置いていて、その鉄製品が錆びて下の石とほぼくっついてしまった状態である。
- 事 務 局：このような疑問点、ご意見等を配布した「質問・意見書」に記載して提出いただければ、次回会議で回答するので審議を進める材料としていただきたい。
- 会 長：事務局から説明があったように、質問・意見等があれば提出いただきたい。そして更に意見を集約し議論を深められればと考える。指定に向けた審議という事で例年より多い回数開催スケジュールとなっているのでよろしく願います。
- 委 員：デザイン（形）などは解ったが、これをきっかけに当時の生活などについて、何かイメージできる物はあるのか。
- 事 務 局：一つは、どちらもお墓の副葬品として出土したものである。「クマ意匠」付浅鉢形土器については、煮炊きの痕跡が見られないため、日常生活の製品を火葬したのではなく、副葬品としてあえてこの「意匠」を付けたのではないかと考えている。当時の人々がお墓の副葬品としてあえて、「クマ」を選んでいたのは何故か。などについて考える資料と考える。鉄製品については実用品としてか、もしくは遠方から来た貴重な物として搬入したのか。などについて考えることができる。
- 委 員：自分は九州出身で、朝鮮半島や中国の影響を受けているとのコメントを聞いたことがある。年代が2000年前の事なので年代が違うかもしれないが、その辺のことを教えてもらいたい。
- 事 務 局：岩手大学の佐藤教授の話では、この段階ですでに九州地域では自分たちで「鉄製品」を作り出す技術があったと考えられる。そこから、山陰や北陸にかけて「鉄製品」が全く見つからない地区を経て、北海道で同時代の「鉄製品」が見つまっている。北部九州と北海道という離れた場所で見つかり、中間の日本海沿岸で見つからない事実から、当時の交易から何を示すのかが、まさに現在、研究されている事柄である。
- 委 員：了解しました。有難うございます。
- 委 員：「鉄製品」は保存の際に酸化が進行し、錆びが進むと考えるが、文化財に指定し保存する際には、どの様な対応を講じていくのか。
- 事 務 局：遺跡発掘終了後に、「鉄製品」の保存処理は済ませおり、これ以上酸化が進まないように保存のための薬剤をすでに塗ってある。当然、外気や紫外線に長時間さらされると劣化は進行するが、展示室のケースの中から出して皆さんに見ていただくには、問題のない状態に仕上がっている。
- 会 長：前回の審議会で、タプコブ遺跡の現地にある標柱の付近に民間の看板が設置されてしまい、タプコブ遺跡の標柱が目立たない状況であると、指摘させていただいたが、その後どうなったか伺いたい。

それと今回、タプコプ遺跡の資料が文化財指定になった際には、遺物の説明等を記載した掲示物の設置も検討しているとの理解で良いか。この2点について、お願いします。

事務局：看板は現在も設置されており、変化はない状況である。今後、地権者（設置者）との協議も含め、どの様な対応が可能か検討していく必要があると考えている。掲示物の設置については指定に向けた審議の中で検討を進め対応していく。

会長：他に質疑がなければ、この件についての質疑を終了したいと思う。予定されている議事は終了したが今回、新規指定の文化財が議題となったことで私から、提案というか問題提起として一言だけ申し上げたい。

苫小牧近辺にはトーチカや沼ノ端飛行場の跡など「戦争遺跡」とされるものが、貴重な状態で残っていると思う。終戦から80年も見えてきて、記憶を語り継ぐことが難しくなってくる中で、「戦争遺跡」についての注目や指定に向けた動きなどが全国的に盛り上がってきていると思う。これを急に「指定しよう」とか「してほしい」という意図ではなく、重要な「戦争遺跡」がある土地の中で今後、調査や劣化への対応などについて、現状での考え方について伺いたい。

事務局：「戦争遺跡」の取扱いについて、現時点では市としての考え方は特に持ち合わせていない。第2次世界大戦から80年近くの年月が経ち、「戦争体験」の風化を危惧する声が多い状況も認識はしている。しかし、戦争に対する思いや「戦争遺跡」の歴史的な価値づけなどには多様な意見があり、慎重な対応が必要な事柄と考えている。今後、国や他自治体の考え方や取扱い方も含め情報収集に努めるとともに教育的観点からの考え方や関係機関などと連携を図りながら、時間をかけて取組んでいく必要があると考えている。また、将来的には本審議会においても議論いただく場を設けていく必要があるのではないかと考えている。

(オ) 今後のスケジュール（予定）について

【質疑なし】

5 その他

事務局より「次回、審議会に向け多くの意見をいただきたい。」旨を説明。

○質疑応答

《全体を通して》

委員：勇払海岸で発見された丸木舟だが、保管していた勇武津資料館からは運び出されたが現在、どの程度まで作業が進んでいるのか情報をいただきたい。

事務局：勇払で発見された丸木舟については、ウポポイと協定を締結しており、現在ウポポイで塩分を抜く「脱塩処理」の作業が進めている。との情報提供がウポポイよりあった。脱塩処理は昨年も実施したが、不十分

のため今年度も継続して作業を進めるとのこと。今後も、様々な動きが出るのが想定されるが、ウポポイと連絡を密に取りながら対応していきたい。

委員：苦小牧としては、2艘の丸木舟についてはウポポイに預けるといっか全体的な調査、保管も含め苦小牧の手を離れたという認識で良いのか。

事務局：今後も脱塩処理をはじめ高額な経費の掛かる作業が必要となり、本市単独では対応できるものではない。丸木舟がどうするか結論も出ていないが、お金を出しているウポポイと協議をしながら、保存に向けた作業を順番に進めていきたいと考えている。現状では、詳細は何も決定していない。

委員：個人的には、多額な経費も掛かるのだから国予算で対応できるウポポイが中心に作業を進めてくれて良いと考える。情報共有のあり方が気になったので伺った。白老と苦小牧が連携を図りながら取組んでいく認識でよろしいか。

事務局：今後も情報提供のあり方についても、どちらか一方からではなく、連名での提供など連携を図っていく。

委員：今回、新規文化財指定の提案で、「38年ぶりの新規文化財指定をしたい」とのことだが、38年前という今回候補物件が発掘された時期と同じである。今回の提案は良いことと考えるが何故、38年ぶりに何をきっかけとして、市の指定文化財候補として審議会に提案されたのか。

事務局：これまでの審議会においても、市として文化財に値する物件を指定していく取組みの必要性については度々、議論されてきたが明確な理由がない中で実現に至らなかったが近年、実現に向け候補物件の選定作業に取組み、昨年度の審議会において「新しい文化財の指定を目指し、1～2件を指定に向けた議論に付したい。」と回答した。その後、美術博物館と選定作業を進め今回提案した2点が新規指定文化財に相応しいとの結論となり、提案に至ったものである。

委員：今後も、そのような視点に立ち取組んでもらいたい。非常に良い提案だと考える。

会長：今回、新規指定に併せて基準の作成など、これを口火に動き出すきっかけになるのではないか。との気持ちである。引続きご協力をお願いする。

会長：他に何かございますか。無ければ本日の議事はこれにて終了させていただきます。皆様、お忙しいところ有難うございました。

15:00 閉会